

検討の観点からみた内容の特色

検討の観点	内容の特色	本書の主な関連箇所
<p>⇒取り扱っている内容は、学習指導要領に示す目標・範囲に適合しているか。</p> <p>⇒教育基本法や道徳教育との関連から、取り扱う内容はどのようにしているか。</p>	<p>◆学習指導要領に準拠し、厳選された地理的事象を多面的・多角的に考察することによって、広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の地域的特色を考察し、地理的認識を養うとともに、我が国の国土に対する理解と愛情を深め、国際社会に生きる民主的で平和な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎が養える内容になっている。</p> <p>◆1編3章・2編3章においては、主題学習や動態地誌的学習が適切に紙面化されている。州・地方におけるテーマや視点は、州・地方の地域的特色を無理なく理解できるものを設定している。</p> <p>◆教科書全体が人間尊重の考え方を基本理念として構成されており、取り上げられている教材は、人権尊重・男女平等などの観点から適切に選択されている。</p> <p>◆日本や世界の多様な文化を尊重する多文化共生社会の重要性が認識できるように配慮している。また、日本の伝統・文化や、我が国と諸外国との関係について考えさせ、我が国や郷土を愛する心情を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を育てる内容になっている。</p>	<p>⇒P.2-17</p> <p>⇒P.8-16</p>
<p>⇒基礎的・基本的な知識・概念や技能の確実な習得を図るために、どのような創意・工夫をしているか。</p> <p>⇒思考力・判断力・表現力等を養う言語活動の充実について、どのような創意・工夫をしているか。</p> <p>⇒図版は、生徒の興味・関心を喚起するもので、かつ読み取りやすいものに工夫されているか。</p>	<p>◆本文は原則1授業時間＝見開き2ページとし、この見開きで何を学ぶのが「学習課題」で明確に示されている。また、右ページの側注欄には「学習の確認と活用」が設けられ、学習のポイントの確実な定着をねらいとした学習活動や、自分の考えを説明することを促す問いかけが提示されている。</p> <p>◆学習に必要な情報を適切かつ豊富に掲載し、生徒の学習を支援している。</p> <p>本文 本文は、十分な文字量を確保し、平易な表現で様々な地理的事象を丁寧に叙述している。</p> <p>インデックス 見開きの左端には、学習単元を示すインデックスを配置し、学習している単元が教科書のどこに位置付けられるのかを常に確認できるように工夫している。</p> <p>キーワード 見開き内でポイントとなる言葉を示しており、「学習の確認と活用」の問いかけに答えるときなどに、活用することができる。</p> <p>言語活動コーナー 図版の内容を読み取ったり、読み取ったことをもとに思考・判断・表現したりする活動が、適宜設けられている。</p> <p>地理+α(コラム) 見開きの学習内容に関する事項を掘り下げ、学習内容の理解を深めていくことができるように工夫している。</p> <p>連携コーナー 小学校社会科の学習や歴史的分野・公民的分野の学習とのつながりが示され、生徒の理解を確かなものにするとともに、より発展できるようにしている。</p> <p>スキルUP 地理的分野の学習を進めるにあたって必要な技能を5種類に整理し、生徒の発達段階に応じて系統立てて習得できるように、詳しく解説している。</p> <p>◆「言語活動コーナー」や「学習の確認と活用」のほか、「トライ」「スキルUP」「学習のまとめ」なども含めて、毎時間、言語活動を設定している。教科書の随所で、生徒がわかったことを自分の言葉で表現する活動ができるように構成されている。これらは、課題の発見と解決に向けて生徒が主体的・協働的に学んでいく「アクティブ・ラーニング」にも対応している。</p> <p>⇒言語活動コーナー(P.36, 63, 151, 158, 213, 242など)</p> <p>⇒学習の確認と活用(P.19, 37, 95, 145, 183, 203など)</p> <p>⇒トライ(P.3, 5, 9, 114, 116, 121, 127など)</p> <p>⇒スキルUP(P.VI, 14-20, 73, 102-112, 179, 256-267など)</p> <p>⇒学習のまとめ(P.57, 89, 217, 241など)</p> <p>◆図版は、本文との関連が的確で、日本や世界の地域的特色を具体的にイメージできる資料が豊富に掲載されている。特に地図については、読み取りや比較のしやすい地図表現を施すことで、読図を容易にしている。</p> <p>◆図版には、「言語活動コーナー」を添えて、読み取りに有効な視点を与えている。また、1編3章・2編3章においては、各種の主題地図・雨温図を、体裁・配置・サイズを統一して掲載することで、地域的特色の理解を容易にしている。</p> <p>⇒P.32-34, 170-173など</p>	<p>⇒P.17-19 P.20-21</p> <p>⇒P.6-7 P.21</p> <p>⇒P.3 P.6</p>
<p>⇒今日の課題にかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。</p>	<p>◆世界や日本の今日の課題について、生徒が主体的に考察することができる教材を取り上げている。本文はもちろん、コラム「地理+α」や特設ページ「自由研究」「地域からのメッセージ」で、地理的分野の学習を掘り下げ、学習内容の理解を深めていくことができる最新の地理的トピックスを具体的に紹介している。</p> <p>⇒地理+α(P.41, 53, 65, 159, 161, 175, 209, 221, 223など)</p> <p>⇒自由研究(P.44, 56, 66, 78, 88, 99)</p> <p>⇒地域からのメッセージ(P.146-147, 156-157, 228, 252など)</p>	<p>⇒P.8-11</p>

検討の観点	内容の特色	本書の主な関連箇所	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-align: center;">内容の選択</p> <p>⇒災害・防災にかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。</p> <p>⇒環境問題や環境保全、持続可能な社会にかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。</p> <p>⇒伝統・文化に関する内容は、どのように選択され位置づけられているか。</p> <p>⇒我が国の国土と歴史への理解と愛情にかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。</p>	<p>◆2編2章1では、様々な災害や防災・減災(自助・共助・公助)について、体系的に詳しく学習する本文・特設ページを10ページにわたって設けている。</p> <p>◆2編3章では、防災・減災に関する各地方の諸課題を学習することができるように構成している。</p> <p>◆教科書の随所に、災害・防災について系統立てて学習することができるシリーズコラム「地理+α 災害・防災」を設定している。 ⇒本文・特設ページ(P.140-149, 201, 230-240など) ⇒地理+α 災害・防災(P.141, 143, 145, 149, 191, 195, 225, 231など)</p> <p>◆環境問題や環境保全、持続可能な社会に関する教材が充実している。世界や日本におけるこれらの諸課題を自らの問題としてとらえ、その解決をめざして行動できる態度を培うことができるように構成している。</p> <p>◆2編2章3では、我が国におけるエネルギー問題、再生可能エネルギーの普及や残された課題について、客観的な視点から詳しく学習することができる本文・特設ページを設けている。</p> <p>◆教科書の随所に、環境問題や環境保全、持続可能な社会について系統立てて学習することができるシリーズコラム「地理+α 持続可能な社会」を設定している。 ⇒本文・特設ページ(P.54-56, 84-87, 154-157, 173-180, 215など) ⇒地理+α 持続可能な社会(P.55, 87, 97, 155, 177, 203, 215, 219など)</p> <p>◆我が国における伝統・文化の現状と、それを守り、未来に継承していく人々の取り組みについて、随所に写真、コラム「地理+α」、特設ページ「地域からのメッセージ」などを設定している。</p> <p>◆地方の人々の視点に立って、各地に息づく文化を叙述するとともに、現代文化についても積極的に取り上げている。 ⇒伝統・文化(P.178-179, 196-204, 233-239, 247など) ⇒現代文化(P.221など)</p> <p>◆我が国や諸外国の国旗について、そこに込められた人々の思いや、象徴として尊重され大切に扱われていることを明記している。</p> <p>◆日本の領域についての学習では、北方領土・竹島の領土問題や尖閣諸島について、歴史的背景や諸外国との関係を詳しく説明するとともに、日本固有の領土であることを明記している。また、日本の領域をめぐる諸課題の解決に向けて、どのような取り組みが必要かを考えさせる内容となっている。 ⇒国旗(P.6-7) ⇒日本の領域(P.116-119)</p>	<p>⇒P.12-13</p> <p>⇒P.14</p> <p>⇒P.15</p> <p>⇒P.16</p>	
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-align: center;">組織・配列・分量</p> <p>⇒地誌学習は、どのような構成になっているか。</p> <p>⇒構成や分量は適切か。</p>	<p>◆1編3章・2編3章の地誌学習は、世界の各州・日本の各地方の地域的特色を確実に理解できる構成となっている。 ⇒1編3章(ヨーロッパ州/P.46-57など) ⇒2編3章(中部地方/P.206-217など)</p> <p>◆1編3章・2編3章の地誌学習の流れを可能な限り統一しており、生徒の学習のしやすさに配慮している。</p> <p>◆まず、最初の4ページで、州・地方の地形、気候、人口、産業などの概要をおおまかにつかむ構成としている。続く6ページ(一部の州では4ページ、8ページ)で、州におけるテーマや地方における視点をもとに、地域的特色を追究していく構成としている。最後の2ページで、州・地方の学習を掘り下げる特設ページ「自由研究」「地域からのメッセージ」、「学習のまとめ」を設定し、州・地方の地域的特色を確実に捉えることが出来るように工夫している。 ⇒最初の4ページ(ヨーロッパ州/P.46-49, 中部地方/P.206-209) ⇒続く6ページ(ヨーロッパ州/P.50-55, 中部地方/P.210-215) ⇒最後の2ページ(ヨーロッパ州/P.56-57, 中部地方/P.216-217)</p> <p>◆州・地方におけるテーマや視点は、州・地方の地域的特色を無理なく理解できるものを設定している。</p> <p>◆1編3章・2編3章では、各種の主題地図・雨温図を、どの州・地方でも、体裁・配置・サイズを統一して掲載している。州・地方内での対比、他の州・他の地方との比較を可能にすることで、地域的特色の理解を容易にしている。 ⇒P.32-34, 170-173など</p> <p>◆全体を「世界のさまざまな地域」「日本のさまざまな地域」の2編に、各編をそれぞれ4章に区分した2編8章構成とし、詳細な学習に陥ることがないように、学習内容の構造化と焦点化を図っている。また、115時間の授業時数で学習が完結できるようにしており、これは、学習指導要領が示す地理的分野の授業時数120時間からいって妥当な分量である。</p>	<p>⇒P.2-5</p> <p>⇒P.2, 4 P.29</p>

検討の観点	内容の特色	本書の主な関連箇所
<p>正確性</p> <p>⇒文章および図版等の表現は正確か。</p>	<p>◆本文や地図・写真・グラフ・しくみ図等の図版類すべてにわたり、内容はもとより、用語の一つ一つまでも細心の注意を払うとともに、きわめて正確で信頼できるものになっている。</p>	<p>⇒P.18-19 P.20-21</p>
<p>内容の程度</p> <p>⇒小学校社会科との連携や、生徒の発達段階に対して、どのような配慮がなされているか。</p> <p>⇒歴史的分野や公民的分野との関連について、どのような配慮がなされているか。</p> <p>⇒生徒の主体的な学習や自学自習に対して、どのような配慮がなされているか。</p>	<p>◆「連携コーナー」を教科書の随所に設け、小学校社会科における地理的分野に関わる学習内容を、学習した学年も含めて再確認できる構成にしている。また、1編1章・2編1章・2編4章などでは本文においても小学校社会科での学習内容を再確認することができるなど、生徒が、既習事項をふまえて、地理的分野の学習を進めていくことができるように工夫している。</p> <p>⇒P.4, 126, 210など</p> <p>◆教科書冒頭では「トライ」で生徒の興味・関心を高める言語活動を行い、その後「言語活動コーナー」で徐々に思考・判断・表現の内容を深めていくなど、発達段階を考慮した構成としている。</p> <p>⇒P.17</p> <p>◆歴史的分野・公民的分野との関連を考慮した内容構成となっている。「連携コーナー」を教科書の随所に設け、歴史的分野との関連では、地理的事象の歴史的背景を、歴史的分野との学習順序にも配慮しつつ、それを活用しながら叙述している。公民的分野との関連では、現代社会の諸課題について、公民的分野の学習につなげていくことができるよう配慮している。</p> <p>⇒P.17</p> <p>◆「言語活動コーナー」や「学習の確認と活用」のほか、「トライ」「スキルUP」「学習のまとめ」など、教科書の随所に設定されている言語活動を行っていくことで、主体的な学習や自学自習が無理なく進められるように工夫している。</p> <p>⇒P.5-7</p> <p>◆巻末の「用語解説」は、地理的用語を6種類に区分し、わかりやすく、詳しく解説するとともに、その用語が重要語句となっているページを参照できるように工夫している。</p> <p>⇒P.274-277</p> <p>◆「さくいん」は、事項・地名に区分され、重要語句を赤字で示している。</p> <p>⇒P.278-281</p>	<p>⇒P.17</p> <p>⇒P.17</p> <p>⇒P.5-7</p>
<p>表記・表現</p> <p>⇒カラーユニバーサルデザインや特別支援教育への対応や、表記・表現について、どのような工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⇒装丁にはどのような工夫がなされているか。</p>	<p>◆特別支援教育・カラーユニバーサルデザインの専門家の校閲を受け、すべての生徒が等しく情報を読み取ることができるように、配慮が行きわたっている。</p> <p>⇒P.18-19 P.20-21</p> <p>◆本文は、原則1授業時間＝見開き2ページとなっており、紙面は学習内容を理解しやすいように、授業や生徒の思考の流れに即したレイアウトで構成されている。</p> <p>◆見開きの左端には、「インデックス」を添えてあり、生徒が学習している単元に常に確認できる工夫がなされている。</p> <p>◆文字は適切な大きさや行間を考え、視認性の高さで実績のある書体を使用している。</p> <p>◆本文は平易な文章で、抽象的・網羅的な記述を避けて、具体的に記述している。</p> <p>◆漢字の使用は、細心の注意を払い、小学校で未習の漢字や、固有名詞などは見開き2ページの初出にふりがなを付し、読みまちがいのおそれがあるものや人名等については教育漢字であっても極力ふりがなを付して、読み取りやすくしている。</p> <p>◆ふりがなは、大きめのゴシック体を使っており、視認性を高める配慮をしている。</p> <p>◆重要語句は太字にして、全てふりがなが付されている。生徒の思考の流れを重視し、重要語句は単元の初出ではなく、単元内で最も重要な箇所に設定している。また、学習上重要な語句は、複数の単元で必要に応じてくり返し重要語句にして、知識の着実な習得をはかっている。</p> <p>◆図版には番号を付すとともに、本文にも関連する図版番号を添えており、本文と図版を関連して読み取らせるようにしている。</p> <p>◆地図・グラフ・しくみ図等の図版類は、カラーバリアフリーに配慮した配色にするほか、形や模様、線の種類など、色以外の情報でも識別できるように配慮している。</p> <p>◆表紙の装丁は、地理的分野の内容に即した世界や日本の地理的事象のイラストを大胆に配置している。日本地理、世界地理、日本と世界とのつながりを想起させて親しみやすく、かつ生徒の学習意欲を喚起するものとなっている。</p>	<p>⇒P.18-19 P.20-21</p>
<p>印刷・製本・その他</p> <p>⇒耐久性や人や環境への配慮がなされているか。</p> <p>⇒拡大教科書について</p> <p>⇒デジタル教科書について</p>	<p>◆印刷は、植物油インキを使用している。また、製本には化学物質過敏症の原因物質は使用せず、再生紙を使用して人体や環境への影響を少なくしている。</p> <p>⇒P.32-33</p> <p>◆製本は、堅牢なあじろ綴じを採用し、針金綴じよりも大きく開き、かつ閉じにくい本になっている。また、良質で軽い紙を使用して重量をおさえると同時に、長期の使用に耐えうるよう配慮され、表面も汚れを防ぐよう加工している。</p> <p>◆本文が18、22、26ポイントの3種類の拡大教科書の発行が予定されている。</p> <p>◆教科書全ページを自在に拡大・縮小できる機能や豊富なコンテンツを収録したデジタル教科書の発行が予定されている。</p>	<p>⇒P.32-33</p>